

＜ 国語 ＞科 学習シラバス

科 目	論理国語	学年・類型	3 年生・ I 型	単位数	3 単位	教科書	新編論理国語(大修館書店)	
学習の到達目標		国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。						
評価の観点	A 知識・技能		B 思考・判断・表現		C 主体的に学習に取り組む態度			
評価の内容	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的に考える力・他者に共感する力・想像する力を伸ばし、言葉で伝え合う力を高めることができる。		言葉がもつ価値への認識を深め、語彙を豊かにし、言葉を使いこなす力を身につけるとともに、他者や社会に対する関心を育むことができる。		論理的な文章を読んだり、論理的に文章を書いたり、論理的に意見を述べたりする活動を通して、積極的に言語感覚を身に付けようとしている。			
評価の方法	・学習活動における発言内容や態度 ・ノート、プリント類 ・小テスト ・定期考査		・学習活動における発言内容や態度 ・小テスト ・定期考査		・学習活動への参加姿勢や態度 ・課題への取り組み状況 ・ノート、プリント類			
学期	月	単元名・小単元名	学 習 の 指 導 内 容			評 価 の 観 点		
			A	B	C			
1 学期	4	○自己を見つめて探求する力	・形式段落ごとの内容を把握し、段落相互の関係性から、本文全体を適切な意味段落に分ける。 ・「探究する力」とは何かということを、本文で述べられている具体例に即して理解する。			○		○
	5	補助線を引きながら考える ○思考を深める 和の思想、間の文化	・筆者の論理の展開に従って本文の意味段落分けを的確に行う。 ・題名の「補助線を引きながら考える」とはどういうことかについて、本文の記述をふまえて理解する。 ・筆者が挙げる『古今和歌集』の「和」について、正しく理解する。 ・「和は、間があってはじめて成り立つ」という筆者の主張とその根拠を正しく読み取る。			○		○
	6	ミロのヴィーナス	・腕や手が象徴するものについての筆者の考えを本文から抜き出す。 ・「量の変化」と「質の変化」などの抽象的な表現を適切に理解する。			○	○	
	7	○社会に向かって志望理由書を書こう	・志望理由書や自己推薦書を書くために必要となる語句を調べることで、語彙を豊かにする。 ・進路活動に必要な書類の情報を収集、整理して、必要となる書類を把握する。			○	○	
2 学期	8・9	○視点を变えて 人類の進化から考える「心」の誕生 クオリアと心	・「心」とは何かについて、人間とそれ以外の動物との対比に注目し、筆者の主張を理解する。 ・なぜ人間に「心」が生まれたのかについて、「集団」「協力」などの語に着目して、筆者の主張を正しく理解する。 ・「痛み」に関する具体例に着目し、「心とは徹底的に『閉じた存在』なのである」という筆者の主張を正しく理解する。 ・クオリアは「脳だけでなく、身体全体と関わる」という筆者の主張について理解する。			○	○	
	10	○問いを深めて書く 問いを立てて書こう	・主張を展開しやすい問いがどのようなものかについて理解する。 ・問題提起と答えの関係に注意し、構成や展開のしかたを理解する。				○	○
	11	○現代を考える 政治の本質	・本文を三つの意味段落に分け、各段落の概要を理解する。 ・「政治とは、ものごとを決めることである。」という筆者の考えについて、関連するほかの教材を読むなどして、理解を深める。			○		○
	12	○未来に目を向けて 未来の地図帳	・筆者の主張と根拠として示された情報との関係を正しく理解する。 ・「拠点型国家」への移行という筆者の主張をおおよそ理解し、その未来像について自分なりに考えを形成する。				○	○
	12	○未来に目を向けて 未来の地図帳	・筆者の主張と根拠として示された情報との関係を正しく理解する。 ・「拠点型国家」への移行という筆者の主張をおおよそ理解し、その未来像について自分なりに考えを形成する。				○	○
3 学期	1	豊かさにつながり	・第一・第二段落の内容が、筆者が主張を述べる上での前提となっていることを理解する。 ・「新たな豊かさ」の例として、筆者が「つながり」を挙げた理由を正しく理解する。			○		○
	2							
	3							
学習のポイント		・教科書の本文の音読をする。内容が理解できるまで繰り返し読む。 ・ノートやプリントは確実に仕上げる。自宅で予習と復習をし、分からない箇所を質問する。 ・読む能力を高め、知識を身に付けるための努力をする。						